

基本的教育と識字率向上月間に あたって

◎国際ロータリー第2590地区 ガバナー 金子 大

日本に住む私たちは、ごく当たり前のように新聞や本などを読み、知識や情報を得、文字を書いて文通し、お互いの意思を何不自由なく伝え合っています。しかし世界には読み書きのできない15歳以上の人が、7億7500万人もいることをご存知ですか。これは、全世界の成人の17%に当たる数字です。しかも学校に通っていない子どもは世界に6700万人いると言われています。

§

この結果は当然のことですが識字率の低下を引き起こします。この識字率の低下は、世界にどんな悪影響を与えているのでしょうか。貧困、失業、争い、環境の悪化、そして人口問題等、挙げたら枚挙にいとまがない状態です。第2680地区の過去のガバナーの石井良昌氏は、「現代社会において、文字文化から隔離されて生きていくということは、社会から置き去りにされることを意味します。非識字者は職に就けず、それが原因で貧困になればその子どもも就学の機会を失い、貧困の差はさらに大きく広がります」と述べておられます。

§

このような深刻な問題に、世界各国のロータリークラブでは全力を挙げて改善に取り組んでいます。そのために実施している活動のひとつに「教育者の育成」があります。

あるロータリークラブでは、これらの問題を抱えている地域社会が、自分たちが自力で学校を建立そして持続して支えていくことや、教育での性差別を減らすような環境づくりに、積極的に支援の手を差し伸べています。また教育者の育成のために、経済的に恵まれない若者に奨学金



制度を設けて、未来への投資を行っているクラブもあります。

§

国際ロータリーは、9月を基本的教育と識字率向上月間と位置づけております。基本教育は人生の礎そのものです。世界に1億2000万人以上いる読み書きのできない子どもを一人でも減らす、貧困ゆえに基本教育を受けられない社会を少しでも変えていく、その使命をロータリーは担っていかなければなりません。ロータリアンであるMark Wilson氏は「読み書きを教えることは、一生使えるスキルを教えることです。その恩恵は、ひとり、またひとりと、地域全体に波及します」と述べています。

基本教育は地域を徐々に変えていきます。人を育てることは、地域を育てることに他ならないのです。